

## 梅野コレクションにより日本近代彫刻史をたどる

梅野記念絵画館 副館長

佐藤 雅子

梅野隆前館長の眼で集められた彫刻を展示することで日本の近代彫刻史をたどってみようという試みです。

梅野前館長は、生前、「自分の蒐集は、彫刻史などを考えて蒐めたものではない、その都度出会った自分の目になかった作品に惚れて蒐めたのだ。よけいなことはするな」と言われました。亡くなる前の年、2011年の常設展の時でした。

意図した訳ではない、と言いながらも、その蒐集品をみると、明治から大正・昭和のその時代時代の重要な作家の作品が揃っています。

明治32年東京美術学校彫像科を卒業した者たちにより官展彫刻の流れができます。その中には朝倉文夫、池田勇八、新海竹太郎等がいます。明治末から大正にかけてロダンが日本に紹介され、わが国の彫刻家に大きな影響を与えました。個性と内面の表現を求めた作家たち…萩原守衛とともに忘れてはいけない作家戸張孤雁、大正から昭和初期にかけては、都市の近代化の中で建築と彫刻の融合を考えた構造社の陽成二、野村公雄等を展示します。

同時開催として「とうみ現代彫刻三人展」を開催致します。「ふるきをたずねて新しきを知る(温故知新)」

梅野コレクションをたどりながら、現代彫刻の今をご高覧下さい。

## 2015年イベントスケジュール

- 9月5日(土) 石彫群鑑賞ツアーと邦楽コンサート
- 9月27日(日) 石彫群鑑賞ツアーとクラシックコンサート
- 10月18日(日) 石彫群鑑賞ツアーと彫刻シンポジウム
- 11月1日(日) 山内龍雄展オープニング

\*変更となる場合もございます。詳細はお問い合わせください。

## お知らせ

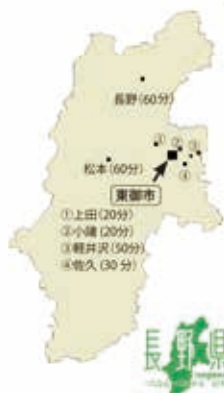
- ◆9/5、27、10/18に石彫群鑑賞ツアーを行います。当館を10時に出発し、東御市中央公園に設置されている彫刻を作家と一緒に鑑賞します。10時半に田中駅から乗車することも出来ます。また、当日はワイン、地ビール、チーズ、抹茶等をご提供致します。
- ◆9/20(日)に、11時田中駅発、16時当館発の送迎を行います。8人乗りとなっておりますので、お電話にてご予約をお願いします。

## 施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>  
 〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1  
 TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp  
 開館時間 午前9時～午後5時(4時30分迄にご入館ください)  
 入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)  
 身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。  
 休館日 9月7、14、24、28日 10月5、13、19日

## アクセス

-  **お車** 練馬ICから2.5時間
-  **鉄道** 東京から最速2時間  
 しのの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から  
 上信越道東部道の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から  
 北陸新幹線「上田」で、しのの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から  
 長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から  
 特急しのの号利用「篠ノ井」で、しのの鉄道乗換、田中下車



保田 龍門 母子像

梅野  
記念  
絵画館  
www.umenokinen.com

同時開催：とうみ現代彫刻三人展

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162

地域の情報をラジオで発信！  
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは  
m@fntomi785.jp



## 梅野コレクションにより日本近代彫刻史をたどる

梅野記念絵画館 副館長

佐藤 雅子

梅野隆前館長の眼で集められた彫刻を展示することで日本の近代彫刻史をたどってみようという試みです。

梅野前館長は、生前、「自分の蒐集は、彫刻史などを考えて蒐めたものではない、その都度出会った自分の目になかった作品に惚れて蒐めたのだ。よけいなことはするな」と言われました。亡くなる前の年、2011年の常設展の時でした。

意図した訳ではない、と言いながらも、その蒐集品をみると、明治から大正・昭和のその時代時代の重要な作家の作品が揃っています。

明治32年東京美術学校彫像科を卒業した者たちにより官展彫刻の流れができます。その中には朝倉文夫、池田勇八、新海竹太郎等がいます。明治末から大正にかけてロダンが日本に紹介され、わが国の彫刻家に大きな影響を与えました。個性と内面の表現を求めた作家たち…萩原守衛とともに忘れてはいけない作家戸張孤雁、大正から昭和初期にかけては、都市の近代化の中で建築と彫刻の融合を考えた構造社の陽成二、野村公雄等を展示します。

同時開催として「とうみ現代彫刻三人展」を開催致します。「ふるきをたずねて新しきを知る(温故知新)」

梅野コレクションをたどりながら、現代彫刻の今をご高覧下さい。

## 2015年イベントスケジュール

- 9月5日(土) 石彫群鑑賞ツアーと邦楽コンサート
- 9月27日(日) 石彫群鑑賞ツアーとクラシックコンサート
- 10月18日(日) 石彫群鑑賞ツアーと彫刻シンポジウム
- 11月1日(日) 山内龍雄展オープニング

\*変更となる場合もございます。詳細はお問い合わせください。

## お知らせ

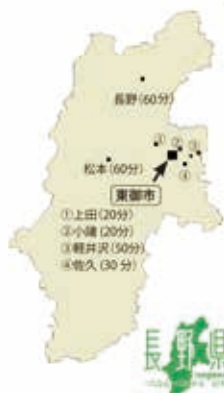
- ◆9/5、27、10/18に石彫群鑑賞ツアーを行います。当館を10時に出発し、東御市中央公園に設置されている彫刻を作家と一緒に鑑賞します。10時半に田中駅から乗車することも出来ます。また、当日はワイン、地ビール、チーズ、抹茶等をご提供致します。
- ◆9/20(日)に、11時田中駅発、16時当館発の送迎を行います。8人乗りとなっておりますので、お電話にてご予約をお願いします。

## 施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>  
 〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1  
 TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp  
 開館時間 午前9時～午後5時(4時30分迄にご入館ください)  
 入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)  
 身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。  
 休館日 9月7、14、24、28日 10月5、13、19日

## アクセス

-  **お車** 練馬ICから2.5時間
-  **鉄道** 東京から最速2時間  
 しのの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- ◆関東、北陸方面から  
 上信越道東部圏の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から  
 北陸新幹線「上田」で、しのの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から  
 長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から  
 特急しのの号利用「篠ノ井」で、しのの鉄道乗換、田中下車



保田 龍門 母子像



同時開催：とうみ現代彫刻三人展

地域の情報をラジオで発信！  **エフエムとうみ 78.5MHz**

リクエスト、メッセージは [m@fntomi785.jp](mailto:m@fntomi785.jp)

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162



## 略歴

### 新海 竹太郎

慶応4年山形県生まれ。明治24年後藤貞行のもとで彫刻を学ぶ。明治33年ベルリン美術学校彫刻部主任教授ヘルテルのアトリエに入り、人体デッサン、大作の構造や制作過程を研究。明治40年第1回文展以来審査員をつとめ、大正6年には帝室技芸員となる。太平洋戦争会研究所塑造部で後進の指導にもあたった。

### 毛利 教武

明治17年東京生まれ。松本正春に彫刻の基礎を学び、明治32年高村光雲に師事、東京美術学校彫刻科を卒業。明治40年第1回文展で「ゆくへ」が3等賞となる。明治41年には東京彫工会審査員となる。昭和6年に帝国美術院推薦、昭和16年には文展審査員となり、直士会結成に参加する。戦災により過去の作品は殆ど焼失してしまった。

### 川上 邦世

明治19年東京生まれ。川上冬崖の孫にあたる。東京美術学校時代に高村光雲に彫刻を学ぶ。フェウザン会に参加し、大正元年の第1回展には彫刻の他、洋画も出品している。大正5年以降、再興日本美術院にも参加。大正14年38歳で死去。

### 橋本 平八

明治30年三重県生まれ。大正4年郷里の彫刻師三宅正直に師事。大正9年佐藤朝山のもとで内弟子として修行。大正11年第9回院展に「猫」が初入選。大正13年院友になる。昭和2年日本美術院同人。シンプルなノミ跡の仕上げに深い精神性を込めた平八独自の木彫を生み出した。

### 陽 咸二

明治31年東京生まれ。13歳にして牙彫を学び、17歳で彫刻家小倉右一郎の門下となる。大正7年第12回文展に「老婆」初入選。その後、帝展に連続入選し、大正11年第4回帝展で「仕者」が特選となる。朝倉文夫の東台彫塑会員として活躍し、15年構造社に加わる。昭和10年帝国美術院改組に際し、無鑑査となり、将来を囑望されていたが、同年呼吸器疾患のため死去。

### 木村 直道

大正12年東京生まれ。昭和16年京北実業を卒業後、丸善株式会社出版部に勤務、夜間川端画学校で学ぶ。戦後寺内萬治郎に師事し、光風会に出品する。40歳頃からスクラプチャーの創作を始め、「木村直道スクラプチャー展」が開催される。昭和47年自殺。



木村 直道 オットセイ



新海 竹太郎 淨世風俗美人



川上 邦世 婦人座像



橋本 平八 聖孔子像



毛利 教武 不動明王



陽 咸二 燈火拍揮

## 略歴

### 新海 竹太郎

慶応4年山形県生まれ。明治24年後藤貞行のもとで彫刻を学ぶ。明治33年ベルリン美術学校彫刻部主任教授ヘルテルのアトリエに入り、人体デッサン、大作の構造や制作過程を研究。明治40年第1回文展以来審査員をつとめ、大正6年には帝室技芸員となる。太平洋戦争会研究所塑造部で後進の指導にもあたった。

### 毛利 教武

明治17年東京生まれ。松本正春に彫刻の基礎を学び、明治32年高村光雲に師事、東京美術学校彫刻科を卒業。明治40年第1回文展で「ゆくへ」が3等賞となる。明治41年には東京彫工会審査員となる。昭和6年に帝国美術院推薦、昭和16年には文展審査員となり、直士会結成に参加する。戦災により過去の作品は殆ど焼失してしまった。

### 川上 邦世

明治19年東京生まれ。川上冬崖の孫にあたる。東京美術学校時代に高村光雲に彫刻を学ぶ。フェウザン会に参加し、大正元年の第1回展には彫刻の他、洋画も出品している。大正5年以降、再興日本美術院にも参加。大正14年38歳で死去。

### 橋本 平八

明治30年三重県生まれ。大正4年郷里の彫刻師三宅正直に師事。大正9年佐藤朝山のもとで内弟子として修行。大正11年第9回院展に「猫」が初入選。大正13年院友になる。昭和2年日本美術院同人。シンプルなノミ跡の仕上げに深い精神性を込めた平八独自の木彫を生み出した。

### 陽 咸二

明治31年東京生まれ。13歳にして牙彫を学び、17歳で彫刻家小倉右一郎の門下となる。大正7年第12回文展に「老婆」初入選。その後、帝展に連続入選し、大正11年第4回帝展で「仕者」が特選となる。朝倉文夫の東台彫塑会員として活躍し、15年構造社に加わる。昭和10年帝国美術院改組に際し、無鑑査となり、将来を囑望されていたが、同年呼吸器疾患のため死去。

### 木村 直道

大正12年東京生まれ。昭和16年京北実業を卒業後、丸善株式会社出版部に勤務、夜間川端画学校で学ぶ。戦後寺内萬治郎に師事し、光風会に出品する。40歳頃からスクラプチャーの創作を始め、「木村直道スクラプチャー展」が開催される。昭和47年自殺。



木村 直道 オットセイ



新海 竹太郎 淨世風俗美人



川上 邦世 婦人座像



橋本 平八 聖孔子像



毛利 教武 不動明王



陽 咸二 燈火拾摺